

## 令和4年度きのくにコミュニティスクール座談会（印南町）

日時：令和5年1月27日（金）14：30～16：30

会場：有田川町地域交流センター【ALEC（アレック）】

参加者：11名（校長5名 学校運営協議会委員3名 PTA会長1名 コーディネーター 2名）

テーマ：「当事者として関わるCS」

講師：和歌山県CSマイスター 大谷 裕美子 氏 岡本 公博 氏

### 1 交流（情報共有・質疑応答）

- ・参加者を学校側、地域側の2グループに分け、普段の活動で抱く悩みなどをCSマイスターに質問



#### ○ 学校グループ

○マイスターから（各校の取組を共有後）

☆発想を変えてみるのが大切

Q, 学校運営協議会の活性化について

A, 学校運営協議会で悩みや困りごとを話すことで、地域は学校の味方になってくれる。（委員との信頼関係を深める）ただ、話し合いだけではなく、役割分担をし、具体的に進めていく方法を話し合う。

例1：お祭りでは、子供は参加するだけではなく、ブースを任せることで、地域の人が子供の良さを見つけてくれる。（企画会議に子供が参加する。先生が全て抱えない）

例2：中学校では、面接の練習に、面接官を地域の人にしてもらう。

：小学校では、隙間時間にかかわってもらう。（縄跳び、けん玉、スポーツテスト）

Q, 教職員への推進について

A, 教員に、地域の人に関わってもらいたい授業を聞き、学校運営協議会で伝え、協働することで教員の成功体験につながる。（地域の人を、学校の便利づかいほししない。対等の立場）

Q, 地域との関わりの作り方について

A, 総合的な学習の時間の活用。年間計画を立てておくとよい。（昔体験、地域の祭り、地域資源など）



## ○ 地域グループ

Q, コーディネーターについて

A, 共育コミュニティには県内に20名以上のコーディネーターがいた。地域との連携は校長一人ではできないため、コーディネーターは必要。公民館からコーディネーターとなりうる人探しを始めてみてはどうか。

Q, ボランティアへのお礼について

A, 県外では謝金を払っているところもあるが、ボランティアの方は子供からのお礼の手紙が一番うれしいのではないか。

Q, 学校運営協議会の活性化について

A, 報告会になってはいけない。今やっている活動に地域の人を交えて行うだけでいい。評価しない(点をつけない)大人の存在は、子供の経験値が上がる。

Q, 子供のとの意見交流について

A, 学校運営協議会に子供をオブザーバーとして入れるとよい。子供になぜできないかを考えさせることで社会性がつく。

Q, コミュニティ・スクールの学校側へのメリットは

A, 教職員の成功体験(助かった感)。隙間時間の、縄跳び、鉄棒やスポーツテストの補助などが取り入れやすい。

Q, 学校運営協議会委員の人選について

A, 入れ替わりは当たり前にしておく。(課題解決に必要な人を委員に入ってもらい、その課題が解決すれば交代するなど)

☆全ては子供たちの未来のため！「未来」を変えるためには「今」を変えることが大切！

## 2 参加者感想(一部抜粋)

- ・大会場では聞けない話が聞けてよかったです。「ぶっちゃけ話」は大事ですね。(学校運営協議会の場でも)
- ・今日の座談会で学んだことを、印南町にお返しできたらと思います。
- ・悩んでいたことのヒントをたくさんいただきました。後日、3回目の学校運営協議会があるので、提案のモチベーションが上がりました。
- ・色々と悩みを話せる場がありよかったです。難しいことではなく、すぐにできることから、一歩踏み出していきたいと思います。今までは話し合っただけだったので、これからは、具体的にどうするかを話し合っしていきたいと思います。また、学校の悩みをどんどん出していきたいと思います。
- ・年間ボランティア計画を年度当初に立て、コーディネーターさんをお願いしたいと思います。
- ・学校運営協議会をもっと活発にするために、校長が変わっても変わらない、自校の課題に焦点を当てる。教職員への推進は、学校運営協議会への参加、CSの校内研修を実施しボトムアップを目指す。
- ・抱いていた課題に的確なアドバイスをいただきました。教員・子供たちとの意見交流を通して「一歩前」に進みたいと思いました。
- ・CSの目標、地域を支え、地域の未来を支える人を育てていくことは本当に素晴らしいと思います。本当に地域を大切に教育は必要だと思えます。